

一般部門

一般部門 入選

下を向いてゴックン

いけの むねこ
【東京都・池野宗子】

99歳の父がK病院に緊急入院した。重篤な心不全で、危険な状態だと主治医から説明されて驚いた。当日の朝は紅茶とパンを食べていたので、その状況が信じられなかった。

翌日、父はICUから一般病室に移った。お粥に好物のマグロのたたきを添えたところ、父は「美味しい」と言って食べた。その時「田中さん、うんちは出たの?」という大声とバタバタ走る足音が聞こえた。平穏な雰囲気が壊されて不愉快になった。看護師Yさんだった。いつも大声で患者さんとやりとりしていて、繊細さに欠けた人という印象だった。

父は徐々に飲み込む力が弱り、ミキサー食になった。食事の途中でせき込むことも増え、飲み込むときにつらそうな顔をするようになった。

どうしたら良いのか途方に暮れた。そんな時、Yさんが食事の介助に来た。一瞬間だなと思った。ところが、Yさんはハスキーボイスを張り上げて「下向いてゴックンしてね」と言いながら、間違えて気管に入らないよう、慎重に、一生懸命食べさせようとした。父はその迫力と大声に励まされて、下をしっかりと向いて飲み込む努力をした。

Yさんは「口元ではなく、喉仏を見ていると飲み込めたか確認できますよ」と教えてくれた。さらに上手な食べ方のコツを教えてくれた。その後も病室に来るたびに、「ゆっくり食べてね。下を向いてゴックンしてくださいよ」と声を掛けながら食事をさせてくれた。Yさんの熱心な看護のおかげで、父は数日間しっかりと食事をとることができ、主治医から「奇跡的な回復ですね」と驚かれた。

残念ながら、その後父は亡くなったが、父の遺影を見るたびに「下を向いてゴックンですよ」というYさんの大きなハスキーボイスが聞こえてくる。Yさんに直接お礼を言う機会もなく、私達は慌ただしく病院を去ってしまった。

最後まで大好きなマグロのたたきを食べられた父は幸せでした。

ありがとう、Yさん。